

平成27年度 活動状況紹介 古都「農安」に松の木を植える

宮城県日中友好協会 本郷祐子

吉林省緑化事業も昨年から第5事業地農安県に移った。

農安県は漢代から栄えたところで扶余府、黄龍府などの都城が設置されていた歴史ある土地。その名残に街の中心部には古塔がそびえ立っている。周囲は全く遮る物がないと思えるほどの大平原で小興安嶺から吹き下ろしてくる春先の季節風が真っ向からあたる地域である。第2松河江流域にあり水利は比較的良好な地域だが、植生は30年以上前に植えたポプラが、現在は古樹となり枯死、欠損が進んでいた。このあたりはトウモロコシ、大豆、落花生などが栽培されているが夏は見事なトウモロコシ畑が延々と続いている。以前この付近を通過したとき道路脇の流通施設のトタン屋根が風でめくれあがっているのを目撃したことがある。もちろん私たち旅人もその風の中をサービスエリアの売店に向かうことは至難の業であった。



平成27年4月17日楊樹林林場で植樹式を行った。真っ平らな林場には大きな長方形の記念碑が建ち赤い布で覆われ式の開始を待っていた。季節風が吹きさらす中だったが、式は粛々と進み農安県林業局副局長などの挨拶と北京からおいで

記念碑の前での訪中団一行

いただいた国家林業局の金普春副司長、宮城県日中友好協会長江幡武の挨拶と続き、記念碑の除幕で終了となった。

黒御影石の大きな碑には植林事業の沿革が記されていた。小中学生の参加もなく、市民の参加も少ない。一般の生活が世知辛くなり県政府の行事に参加する時間がなくなっているのかと思う。そのあと、広く平らな植林地に樟子松を植えた。今回の植林団参加者は29名だったが2回3回と参加している人が多く、植林手順などを説明して貰ってから植えるのだが、みんな手早くて1時間くらいで用意されていた苗木は完了、水やりも完璧だった。しかし、私たちが植えた苗はほとんど手直しが必要とのことでした。植林のご褒美は林場食堂の昼食。林場で飼っている羊の肉や畑のジャガイモ、にんじん、ササゲ豆等々、もちろん大きな西瓜も食べよく切り分けて出していただいた。手作りの田舎料理でもてなしは何を食べてもおいしい。やはり地産地消が一番と思う。

調査訪中は9月4日現地を訪れた。4月に植えた樟子松はさらに成長し私の脛の長さと同じくらいで、成長の早さに驚く。さらに現地は目を疑うような光景があった。植林地一面に



西瓜が転がっている。みんなが驚いていると農安林業局員が笑いながら説明をしてくれた。林場の有効利用で、ここで収穫された作物の収益は林業局の人件費に充てられるのだという。そういえばこれまでも大体の林場ではピーナッツが栽培されていた。砂が飛ぶのを防ぐ目的と思い込んでいたが、林場職員の給料になるとは

着実に生長している樟子松

一挙両得と言える。そして今年植林する場所に移動した。隙間だらけの古いポプラの林には牛を放牧している。このあたりも今年植える土地とのこと。そして今年はここに南蛮と蕪のような形の大根を植えたいと思っているとも。うれしそうに楽しげに話してくれた。聞いている私たちも今年の収穫と調査風景を思っとうれしくなってしまう、顔をほころばせて聞いた。